

「讃岐の民俗を追って」を開催しました

平成25年10月2日から11月6日までの期間、6回にわたって香川民俗学会名誉会長の谷原博信さん、香川民俗学会名誉会員の藤井洋一さん、香川民俗学会名誉会員の川井和朗さん、香川民俗学会所属の丸山恵子さん、香川民俗学会会長の西山市朗さんの5名を講師にお迎えし、「讃岐の民俗を追って」を開催しました。

第1回目は、谷原博信さんに「讃岐の農村歳時記—稲を選んだ日本人—」というテーマでお話をいただきました。稲作の伝来や文化、世界の米について学びました。



第2回目は、藤井洋一さんに「お四国さん」というテーマでお話をいただきました。四国遍路の歴史や豆知識について、写真を見せながら説明していただきました。

第3回目は、川井和朗さんに「小豆島の民俗—虫送りの民俗を中心に—」というテーマでお話をいただきました。虫送りとは火に近づく虫の習性を利用した害虫退治で、そんな伝統行事が300年以上も続いていることがわかりました。



第4回目は、丸山恵子さんに「讃岐・魚食の民俗」というテーマでお話をいただきました。イカナゴ醤油やカマスの上おきうどんなど、讃岐の伝統料理を教えてくださいました。

第5回目は、谷原博信さんに「さぬきの昔話秘話」というテーマでお話をいただきました。誰もが知っている昔話の桃太郎も地域によって内容が異なるそうです。面白い昔話に笑いが起きていました。



第6回目は、西山市朗さんに「瀬戸内における離島の民俗」というテーマでお話をいただきました。瀬戸内海にはたくさんの島がありますが、その中でも瀬戸内国際芸術祭の会場にもなった高見島と佐柳島の年中行事や食文化について語っていただきました。

民俗とは古くから民間に伝承してきた風俗や習慣です。講師のみなさんは、実際に現場に足を運び、地元の方々に聞き取りをして、失われつつある讃岐の民俗を伝えています。